

おきなわ 技能五輪・アビリンピック 2018

第 56 回 技能五輪全国大会
第 38 回 全国アビリンピック

大会基本計画

平成 28 年 5 月

おきなわ技能五輪・アビリンピック 2018 推進協議会

はじめに

かつて海がまだハイウェイだった時代。沖縄は、周辺海洋地域に点在した国々と盛んに交易を結び、人、物、情報の交流拠点として栄え、独自の歴史文化を育みました。互いの個性を認め合い、多様性の上に互恵的な関係を紡ぐことで生まれた相互扶助の文化は、今もこの地に暮らす人々の心に「万国津梁の精神」として脈々と受け継がれています。

日本の最南端という沖縄の地理的不利性は、日本を含むアジア全体から見たとき、一転して優位性へと捉え直され、情報技術と物流網の発展によって、規模や距離を超えたダイナミックな交流を生みだせる可能性が見えてきます。沖縄には、人口増加の持続、豊富な若年労働力、高い出生率があり、経済的発展の可能性が 있습니다。この大きな可能性を実現するためには、アジア経済戦略構想に示される沖縄の強みを生かし、個性と創造力を備えた職業人を育み、付加価値の高い高度な産業を周辺諸国とともに発展させ、互恵的な関係性の中で豊かさを紡ぐことが求められています。

沖縄がアジアの一員として、新たな時代を切り拓こうとする今このとき、沖縄に生きる人々の技能を、社会全体で育て磨き、発展の原動力とする契機が強く望まれています。座して機が熟すことなく、好機とは機転を働かせ自らつくり出すものです。両大会の開催は、沖縄が日本とアジアのクロスロードとして、全国、アジアの人々とともに未来を目指す覚悟であり、未来に向けた第一歩となるものです。

「技能五輪全国大会」及び「全国アビリンピック」は、鍛え抜いた技能で、全国のライバルと、そして自分自身との真っ向勝負の場であり、若き技能者たちの祭典です。両大会は、選手にとっての晴れ舞台であると同時に、開催地の子供たちが若き技能者たちの技を直接感じられる機会でもあり、その体験から自らの将来に思いを馳せ、未来の可能性や希望を発見できる場ともなり得ます。

ここに編纂する計画は、希望を求めて船出する、沖縄の決意です。記された趣意と理念は星々のように輝いて、海図なき未来への航海で道標となり、私たちを着実に導いていきます。かつてハイウェイだった海は、私たちに新たな可能性を開放してくれます。

豊かな個性と創造力に輝く人々を結ぶ、希望の架け橋として。

目 次

1	開催趣旨	1
2	基本方針	2
3	第56回技能五輪全国大会の概要	3
4	第38回全国アビリンピックの概要	5
5	推進体制	7
6	事業計画	8
	(1) 技能競技大会	8
	(2) 合同開閉式典	8
	(3) 選手の育成強化	8
	(4) 広報啓発	9
	(5) 開催支援	10
	(6) 併催事業	11
	(7) 成果継承	11
7	全体スケジュール	12

1 開催趣旨

技能五輪全国大会は、青年技能者がその技能レベルの日本一を競うことにより、国内の青年技能者の技能水準の向上を図り、併せて技能尊重機運の醸成を図ることを目的とする競技大会です。

全国アビリンピックは、障害者が技能を互いに競い合うことにより、その職業能力の向上を図るとともに、障害者に対する社会一般の理解を深め、障害者の雇用の促進を図ることを目的とする競技大会です。

両大会には、職業能力としての技能を高め、創造力を発揮して働くことで自立を目指す者が集います。そこには、個性を生かし自らの未来を切り拓く職業人の姿があり、技能に支えられた自信が、職種や障害の有無を超えた交流と信頼関係を生みだし、競技を見る者に感動を与えます。

近年沖縄は、社会基盤の整備、観光産業の拡大、情報通信や物流関連企業等の誘致が進み、雇用環境は改善傾向にあるものの、依然として離職率、失業率が高く、非正規労働者の割合が多い状況が続いています。

両大会の開催は、県内の技能水準の向上及び産業の高度化に資するのみならず、次代を担う子供たちが働くことの意味や喜び、技能の持つ大きな可能性を発見し、技能を通じて社会に貢献する生き方を学ぶ機会になり得るものです。

両大会を一過性の事業として開催するのではなく、若き技能者を育成する企業風土の醸成や感化された子供たちの自立心や職業観を大切に育む教育環境、彼らが個性と創造力を発揮し、働くことができる社会環境、それを取り巻く雇用環境の整備を同時並行的に推進することで、沖縄の抱える課題解決の一助となり、沖縄の経済的自立を推進する好機ともなります。

次世代を担う若者たちが、豊かな個性と身につけた技能で自由自在に海を渡り、未来を切り拓いていく姿に胸を躍らせ、私たちは、この沖縄の地で両大会を開催します。

2 基本方針

(1) 基本的な考え方

技能五輪全国大会及び全国アビリンピックの沖縄開催を契機として、職業技能の向上、人材育成による産業の高度化、キャリア教育の深化並びに障害者雇用に対する理解を進めることで、技能と創造力を生かす者や障害者に活躍の場を提供し、強くしなやかな地域経済の構築と優しい社会の構築の実現を図ります。

その実現に向け、次の3つのコンセプトを立てて、取り組みます。

① 未来への人づくり

企業等における人材育成の意欲を高め、産業を支える青年技能者の拡大及び技能の向上を図り、本県産業の持続的発展の基盤強化につなげます。

② 競技大会とキャリア教育の両立

選手達の最高のパフォーマンスを引き出す環境と、次世代を担う子供たちが、研鑽された技能に触れる見学環境を整え、相互にメリットが享受できる互恵的な大会環境を目指します。

③ 障害者の雇用促進

障害者の職業能力の向上を図るとともに、技能五輪全国大会と全国アビリンピックを同時開催し、大会参加者と来場者の交流を通して、障害者の職業能力に対する理解と認識を高め、障害者の雇用促進につなげます。

(2) 大会スローガン

Challenges for the future

「なぜ働く？」己と向き合い、辿り着いた答えの先で、自らの可能性を信じ、失敗を恐れず、挑戦し続ける者だけが未来を切り拓きます。

この大会スローガンには、こうした若者を一人でも多く育てたいという思いが込められています。

3 第56回技能五輪全国大会の概要

(1) 目的

青年技能者がその技能レベルの日本一を競うことにより、国内の青年技能者の技能水準の向上を図り、併せて広く国民一般に技能の重要性、必要性をアピールし、技能尊重機運の醸成を図ることを目的とする。

(2) 主催 : 厚生労働省、沖縄県、厚生労働省委託機関

(3) 開催期間

平成30年11月2日(金)から5日(月)の4日間(予定)

1日目: 開会式

2日目: 競技(1日目)

3日目: 競技(2日目)

4日目: 閉会式

※ 競技職種によっては、一部先行して競技を開催する場合があります

(4) 参加者数 : 選手約1,300人、大会関係者約700人を想定

(5) 来場者数 : 県内外からの来場者数延べ10万人を想定

(6) 競技職種 : 41職種(予定)

職種グループ	競技職種
機械系(8)	機械組立て、抜き型、精密機器組立て、機械製図、旋盤、フライス盤、木型、自動車工
金属系(5)	構造物鉄工、電気溶接、自動車板金、曲げ板金、車体塗装
電子技術系(4)	メカトロニクス、電子機器組立て、電工、工場電気設備
建設・建築系(10)	タイル張り、配管、石工、左官、家具、建具、建築大工、造園、冷凍空調技術、とび
サービス・ファッション系(11)	貴金属装身具、フラワー装飾、美容、理容、洋裁、洋菓子製造、西洋料理、和裁、日本料理、レストランサービス、時計修理
情報通信系(3)	ITネットワークシステム管理、情報ネットワーク施工、ウェブデザイン

(7) 参加資格

原則 23 歳以下（平成 7 年 1 月 1 日以降生まれ）であること

(8) 開催地域 : 沖縄本島中南部（予定）

【式典会場】 沖縄セルラースタジアム那覇（予定）

【競技会場】 沖縄コンベンションセンターほか（以下は予定会場）

那覇市 : 那覇市民体育館、沖縄調理師専門学校

浦添市 : 琉球調理師専修学校、浦添運動公園、浦添職業能力開発校

宜野湾市 : 沖縄コンベンションセンター、宜野湾市立体育館、宜野湾市立屋内運動場

北谷町 : 北谷公園屋内運動場

沖縄市 : 沖縄県立総合運動公園、沖縄市立総合運動場、
沖縄ポリテクカレッジ

うるま市 : 具志川ドーム

開催予定エリア



※開催地の経緯

- ・第 1 回大会（昭和 38 年）から首都圏を中心に毎年開催
- ・第 29 回大会（平成 3 年愛知県開催）から、可能な限り開催都道府県と共催で開催

（近年の開催）

- ・第 48 回大会（平成 22 年）神奈川県
- ・第 49 回大会（平成 23 年）国単独開催（開催地：静岡県等）
- ・第 50 回大会（平成 24 年）長野県
- ・第 51 回大会（平成 25 年）国単独開催（開催地：千葉県等）
- ・第 52 回大会（平成 26 年）愛知県
- ・第 53 回大会（平成 27 年）国単独開催（開催地：千葉県等）
- ・第 54 回大会（平成 28 年）山形県
- ・第 55 回大会（平成 29 年）栃木県

4 第38回全国アビリンピックの概要

(1) 目的

障害者が技能を互いに競い合うことで職業能力の向上を図るとともに、障害者に対する社会一般の理解を深め、障害者の雇用の促進を図ることを目的とする。

(2) 主催 : 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構、沖縄県

(3) 開催期間

平成30年11月2日(金)から5日(月)の4日間(予定)

1日目: 開会式

2日目: 競技

3日目: 競技

4日目: 閉会式

※ 競技種目によっては、午前・午後入れ替え制にて競技を開催する場合があります

(4) 参加者数 : 選手約300人、大会関係者約550人を想定

(5) 来場者数 : 県内外からの来場者数延べ5万人を想定

(6) 競技種目 : 22種目(予定)

種目グループ	競技種目
金属・機械系(1)	機械CAD
建築・工芸系(5)	家具、建築CAD、義肢、歯科技工、木工
電子・技術系(3)	DTP、電子機器組立、コンピュータプログラミング
情報技術系(6)	ワードプロセッサ、データベース、ホームページ、表計算、パソコン操作、パソコンデータ入力
サービス・ファッション系(7)	洋裁、縫製、フラワーアレンジメント、喫茶サービス、ビルクリーニング、製品パッキング、オフィスアシスタント

(7) 参加資格

15 歳以上（平成 30 年 4 月 1 日現在）の障害者

(8) 開催地域 : 沖縄本島南部（予定）

【式典会場】 沖縄セルラースタジアム那覇（予定）

【競技会場】 奥武山総合運動公園ほか（以下は予定会場）

那覇市 : 奥武山総合運動公園、沖縄セルラーパーク那覇

豊見城市 : 豊見城市民体育館

開催予定エリア



※開催地の経緯

- ・ 第 1 回大会（昭和 47 年）から国際アビリンピック開催年を除き毎年開催
- ・ 第 26 回大会（平成 14 年熊本県開催）から、原則として技能五輪全国大会と同一場所、同時期に開催
（近年の開催）
- ・ 第 32 回大会（平成 22 年）神奈川県
- ・ 第 33 回大会（平成 24 年）長野県
- ・ 第 34 回大会（平成 25 年）国単独開催（開催地：千葉県等）
- ・ 第 35 回大会（平成 26 年）愛知県
- ・ 第 36 回大会（平成 28 年）山形県
- ・ 第 37 回大会（平成 29 年）栃木県

5 推進体制

県知事を会長として、経済界、技能士団体、教育、福祉、マスコミや行政など幅広い団体・機関で構成する大会推進協議会を設置し、全県を挙げて開催準備に取り組み、大会の成功につなげます。

(1) 名 称

おきなわ技能五輪・アビリンピック 2018 推進協議会

(2) 構 成

ア 総 会

県知事を会長として、関係市町村、関係機関・団体の長並びに役員で構成し、事業計画の決定及び事業報告の承認、予算の決定及び決算の承認、幹事会に委任する事項に関することなどを審議・決定します。

イ 幹事会

県商工労働部長を幹事長として、関係機関・団体の役員で構成し、総会から委任された事項、総会に付議すべき事項、専門委員会への付託事項に関することなどを審議・決定します。

ウ 専門委員会

大会運営専門委員会、技能五輪選手育成専門委員会、アビリンピック選手育成専門委員会を設置します。それぞれ関係機関・団体の事務局長等で構成し、幹事会から付託された事項について、調査審議し、幹事会に報告します。

(3) 取組内容

- ア 大会の開催に必要な計画の策定に関すること。
- イ 競技及び式典に関すること。
- ウ 選手の育成・強化に関すること。
- エ 広報に関すること。
- オ 宿泊、輸送、交通及び警備に関すること。
- カ 併催事業に関すること。

(4) 予 算

収入面については、県の負担金を主体とし、企業からの協賛金や寄付金を募ります。支出面については、随時、精査を行い、開催経費の削減に努めます。

6 事業計画

(1) 技能競技大会

来場者がより多くの競技を観戦できるよう会場の集約に努め、選手・競技関係者と観戦者双方が満足し、互いに良い刺激を与え合える互恵的な大会環境の構築を目指します。

ア 競技会場の整備

両大会の各競技職種に求められる会場の確保や専用機材の購入をはじめ、電源設備、給排水設備等、必要なインフラ環境を整備し、選手が能力を100%発揮できる環境を整備します。

また、沖縄らしい会場装飾を通じて開催地沖縄を強く印象づけます。

イ 見学環境の整備

十分な見学スペースの確保及び、競技職種に関わる技術や産業、社会での活用方法などの関連情報を幅広く提供し、見学者が興味と関心を持って観戦できる環境整備に努めます。

また、来場者がより多くの競技を観戦できるように、会場と会場を直接結ぶシャトルバスの運行や臨時駐車場の確保等、安全で効率的な移動手段を提供します。

(2) 合同開閉式典

選手を歓迎する開会式、入賞者を表彰する閉会式は、沖縄の魅力を散りばめた演出で開催し、大会に彩りを添えます。両式典には、多くの県民が参加できる機会を提供し、両大会の開催趣旨の共有を図ります。

(3) 選手の育成強化

選手育成は、活躍が期待される青年技能者を有する競技職種、今後沖縄が産業振興を目指す分野等を精査し、原石を磨く指導者育成と合わせて、継続的な取組になるよう戦略的に推進します。

ア 選手の育成

競技課題の練習に必要な材料費等への助成金制度を創設するほか、技能五輪・アビリンピックのメダリスト・指導者による競技実演と実技指導を行う出前講座を実施し、大会に出場する選手の技能向上を図ります。

イ 指導者の育成

青年技能者は伸びしろが大きく、優れた指導者に恵まれることで、飛躍的に成長することから、指導者の育成・強化を図ります。県内の関連業種の事業主、人材育成機関、教育機関等と連携を図り、中心的な役割を担う指導者を選定の上、先行大会にスタッフとして派遣し、全国大会の経験が積める環境を準備します。

ウ 合同練習会

大会本番は、多くの観衆に見つめられ、緊張感と時間的制約の中で競技を行うことから、本番を想定した合同練習会や集客施設における競技デモンストラクション等を実施します。

(4) 広報啓発

協賛事業の実施や様々な広報媒体を活用した効果的な広報活動を展開します。大会の成功に向けて、開催趣旨や目的を広く県民に周知し、職種・技能に対する興味・関心を高め、県民の主体的な大会参画を促進します。

ア シンボルマーク、マスコットキャラクターを公募により策定し、効果的に活用することで大会気運の醸成を図ります。

イ 大会専用ウェブサイトによる情報発信に加え、チラシ、ポスター、県・市町村や関係機関の各種広報誌など各種ツールによる広報活動を行います。

ウ 地元メディアとの協調関係を構築し、沖縄大会に関する様々な取組や情報が迅速かつ広域的に伝達されるよう努めます。

エ 技能五輪及びアビリンピックの県予選大会や各種県内イベントと連携し、プロモーションの場として最大限の活用を図ります。

オ 1年前や100日前の節目に、関心喚起に向けた話題づくりを行います。

(5) 開催支援

全国から訪れる選手や来場者に快適な宿泊・移動手段の提供や安全の確保等に努めるとともに、沖縄の魅力も満喫できる機会を提供し、円滑で沖縄らしい大会運営に取り組みます。

ア 快適な宿泊及び輸送の提供

選手・関係者が競技に集中できるよう快適な宿泊、移動手段等に万全を期すとともに、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの施設を活用するなど、バリアフリーにも十分留意します。

イ 沖縄の魅力発信

市町村や県内企業等と連携し、主な会場に沖縄の伝統文化の魅力や観光情報等を発信するスペースを設置します

ウ ボランティアの参加

競技会場のある市町村と連携し、大会運営等を支えるボランティアスタッフ体制を整備します。

エ 安全の確保

各会場及び周辺の警備、衛生監理、救急対応の計画と準備を徹底し、大会期間中、選手たちが競技に集中し、来場者が安全に過ごせる万全の環境を提供します。

オ 環境への配慮

両大会を通じて3Rの原則を遵守するとともに、発生する各種廃棄物及び二酸化炭素量を可能な限り抑制し、環境負荷の軽減を徹底します。

(6) 併催事業

両大会は、県内の小・中・高校生が、様々な職業を知り、職業観を形成する絶好の機会となるよう、県内の市町村、教育機関、経済団体等と連携しながら、事前準備に取り組み、大会見学につなげます。




また、アジアに近い地理的優位性を活かした国際物流拠点の形成が進みつつある本県の現状を踏まえ、企業誘致と人材育成を促進させる取組と有機的な連携を図ります。

- ア 県内の小中学生を対象に、競技職種と関連する仕事と職業を事前に学び、体験する機会を提供し、大会を主体的に楽しみ学ぶことを通じて、職業観の形成が図れるよう支援します。
- イ 県外から、多くのものづくり企業が訪れる機会であり、本県の魅力ある投資環境のPRをするなど、企業誘致をさらに加速させる取組を検討します。
- ウ 沖縄とアジアをつなぎ、付加価値を生み出す人材の育成に資する取組を検討します。
- エ 障害者が持つ能力をアピールする場を提供し、障害者雇用を促進させる取組を検討します。

(7) 成果継承

両大会への沖縄県選手団の派遣継続に加え、沖縄の成長戦略及び各業界団体の意向を踏まえた選手の育成・強化、指導者育成のスキームを継承し、青年技能者の育成に努めます。

7 全体スケジュール

	H27	H28	H29	H30	H31
国際大会	 worldskills		 worldskills		 worldskills
技能五輪全国大会 全国アビリンピック		山形大会 (10月)	栃木大会 (11月)	沖縄大会 (11月)	愛知大会
計画策定	基本計画	実施計画	→	大会開催	
推進体制	準備委員会設置	推進協議会設置	→	運営	
選手育成対策	→				
併催事業		事業計画	→	実施・運営	
広報活動	→				